

畝傍東通信

学校教育目標：豊かな感性と実践力をもち 自ら学び たくましく生きる児童の育成

2学期がはじまりました！！

長い夏休みが明け、44日ぶりに子どもたちが元気に登校し、学校に子どもたちの歓声が戻ってきました。心も体も一回り大きくなった子どもたちの元気な姿と笑顔を見ることができ、嬉しく思います。

2学期は、6年生の修学旅行に始まり、秋の校外学習、運動会、創立50周年記念式典、マラソン大会などの学校・学年行事がたくさんあります。なかでも、本年度は、創立50周年に当たり、11月には、記念式典等の記念行事が行われます。子どもたちが、さまざまなことに挑戦し、達成感・充実感を感じ、笑顔いっぱいになれるように職員一同努めて参ります。

さて、2学期の始業式では、戦後80年から、戦争・平和について一つの数字から話をしました。「12241」この数字は何をあらわす数字でしょうか。今も尚、世界中にある原子爆弾のような核兵器の数です。日本では、80年前の8月にヒロシマ・ナガサキに大きな原子爆弾が投下され、たくさんの尊い命が失われました。核兵器を持っている国は、爆弾により尊い命が失われることを知っていても、爆弾の威力を弱めれば、使えるかもしれないとの考えのもと核兵器を生み出しています。今後も日本が戦後90年、100年と歳月を重ねていくことを願ってやみません。一方で、今も尚、戦争が行われている国があることも忘れてはなりません。

2学期も、子どもたちは、学校生活の中で、学年・学級等で友だちとの関わりが生まれます。相手を思いやり、互いに思いを伝え合い、認め合う気持ちをもってほしいと話をしました。また、2学期を迎えるに当たって、教職員には、子どもたちとの接し方として、「子どもたちとじっくり向き合い、その声に傾聴し、一人一人の良さを見つけ、褒めること」を大切にしてほしい旨を話しました。2学期も学校に子どもたちの笑顔があふれることを願い、取組を進めて参ります。

今回は、9月の取組の中から、4年生の「木育授業」と5年生の「英語でアート」について様子をお伝えします。



4年生 木育の授業

本年度、「かしはら木育プロジェクト」のモデル校として4年生が取組を進めています。「木育」とは、「子どもをはじめとするすべての人々が、木とふれあい、木に学び、木と生きる」ことを学ぶ教育活動です。橿原市では、令和4年度よりモデル校の4・5年生を対象に図画工作科の木材を扱う単元で、奈良県産材を使用した木工を行っています。「木育授業」を通して、子どもたちが木材の特徴や歴史、産業、木工技術について学び、木材から森林へのつながりについて興味をもつようになることをねらいとしています。



「ギコギコクリエイター」と題して、2時間の授業を3回行い、個々がイメージする木工作品を完成させます。第1回目は、9月4日（木）に実施しました。授業のはじめに、奈良県吉野の木の特徴や歴史について学びました。その後、制作する物を考え、角材をノコギリで切ったり、ボンドや釘で組み立てたりしていきました。9月16日（火）と22日（月）に引き続き授業を進めていき、最後には、オリジナルの作品が完成します。どんな個性豊かな作品ができあがるのか楽しみにしています。

5年生 英語でアート

テーマ「わたしたちの伝統の町、50周年を記念して 未来へ！！」

5年生では、9月12日（金）にフランス人アーティストの方をゲストティーチャーにお招きし、英語のみの指導によるワークショップ「英語でアート」に取り組みました。「英語でアート」は、本物のアーティストに会い、英語をコミュニケーションのツールとして、創造的なアート作品づくりに取り組むワークショップです。作品のテーマは「わたしたちの伝統の街、50周年を記念して 未来へ！！」です。

作品制作当日、子どもたちは、ゲストティーチャーの先生の英語での話に耳を傾けながら、各々がイメージする残したい建造物や未来にあるだろう建造物を描いていきました。完成した5年生一人一人の作品を合わせて50周年を記念する一つの協働作品に作り上げ、式典当日に体育館に展示する予定です。完成を楽しみにしています。

